

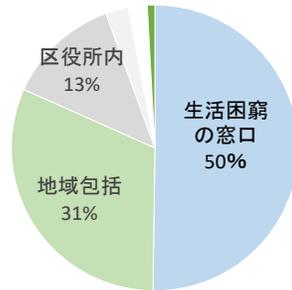
総合的な相談支援体制の充実(モデル事業)の実績(平成29年度)

(1) 複合的な課題を抱えた要援護者の支援

◇相談受付・対応状況

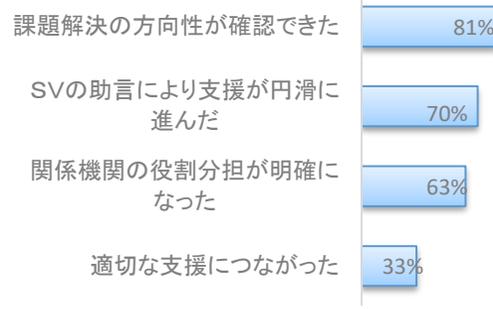
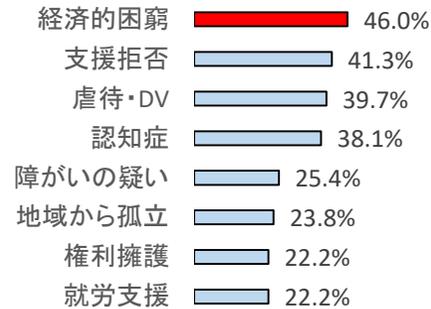
	東淀川区	平野区	福島区	合計
相談受付	138	66	31	235
支援調整の場(つながる場)開催	50	22	1	73
職員によるつなぎ	69	14	16	99
(参考)SVの派遣	66	36	39	141

◇相談があった機関等



◇「つながる場」の事例の課題(重複あり)

◇「つながる場」の効果(参加者アンケート)



(2) 相談支援機関の連携に向けたツール等の作成

※スーパーバイザーのアドバイスのもと、区職員と相談支援機関が協働し、各区の課題に応じて実施

東淀川区・福島区・・・相談支援機関の機能・役割・担当者等の情報を集約したガイドブックを作成し、関係機関・庁内等に配布
平野区・・・・・・・・・相談支援機関の担当者が気軽に相談できる関係づくりを目指し、定期的に「集まる場」を設置

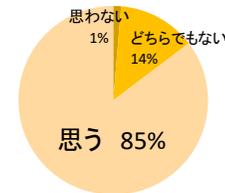
(3) 相談支援機関・区職員等に対する研修の実施(人材育成)

◇研修実施状況

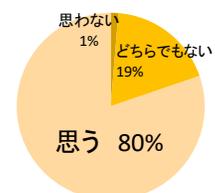
東淀川区・・・相談支援機関・地域関係者・区職員を対象とした研修会(4回)
平野区・・・・相談支援機関・区職員を対象とした研修会(3回)
(「セーフティネット連絡会(生活困窮)」との合同実施)
福島区・・・・区役所職員を対象とした連続講座の開催(2回)

東淀川区の事例【テーマ】「世帯を見立てる方法について」

【参加者】76名(関係機関25名、地域関係者10名、職員41名)



施策横断的な連携の必要性が理解できた



世帯全体を見立てる手法や必要性について理解できた

・「つながる場」を開催した73件では、スーパーバイザー(SV)の助言等より、支援が円滑に進み、課題解決につながる効果が見られた
・モデル事業の取組みを通じ、相談支援機関・区職員の顔の見える関係が構築されるとともに、それぞれのスキルの向上が図られた

行政が中心となり、SVの助言を受けながら、多機関連携のしくみづくりを行うというモデル事業の内容・手法については、効果があった